

まちの話題

「笑って子育てを楽しもう♪」 子育て支援の一環でDVDを作成

これから子育てをはじめめる夫婦が気軽に子育てについて学んでほしいと、西原町が(有)FECオフィス及びお父Ring沖縄と共同で「爆笑うちなー子育てDVD」を製作し、4月24日に完成記者会見を行いました。

製作されたDVDは、2月に開催された「爆笑うちなー子育て 笑う子育て講演会」を収録、編集したものです。子育てでありがちな夫婦間のトラブルを漫才仕立てにしたお笑いライブと、専門家が子育てについてアドバイスしている解説トークの構成になっています。完成にあたり上間明町長は「少子化の中、家庭内では妻と夫が協力して育児に取り組む意識付けが重要。夫婦で仲良く楽しく子育てする参考になれば。」とDVDをアピールしました。また、(有)FECオフィスの山城智二社長は「夫婦の悩みや問題をどう笑いのネタにするか、楽しく取組めた。たくさんの人に見てもらいたい。」とコメントしました。

製作したDVDは、第1子を授かった方を対象に福祉部福祉課で母子手帳と一緒に配布するほか、西原町公式動画サイト「さわふじチャンネル」で公開しています。



ロシアから行政関係者などが来町 地方自治の取組みについて視察

ロシアのモスクワにあるオジンツォフスキー地区の首長や地域開発の責任者などの訪問団9名が、西原町の行政運営について学ぶため5月8日に来町。上間明町長などと懇談しました。

今回の訪問は、沖縄県空手博物館(宇上原)の館長も務める外間哲弘さんがロシアで空手の指導をしたことが縁となり実現したもの。訪問団は沖縄の行政や文化の取組みに関心を持っており、市町村単位での地方自治に触れるため、本町を訪れました。

懇談では本町の特徴をはじめ、税金の徴収方法や予算の組み方、活用方法、福祉・教育施策やゴミ問題など多岐にわたって質問がされ、上間町長の説明に熱心に耳を傾けました。



「梅の香りうた遊び大会」 第10回記念大会が盛大に開催

宇小那覇出身の作曲家、新川嘉徳を偲び、代表作「梅の香り」を地域文化遺産として保存継承・発展させ、後世に語り継ぐことを目的に「第10回梅の香りうた遊び大会」(「梅の香り」歌碑建立記念事業委員会・小那覇自治会主催)が、4月28日に小那覇児童公園で開催されました。

10回目の記念大会となる今回は、大会最年少の出場者で7歳の玉城茂大くん(南城市)をはじめ、町内外から15組が出場。同公園に建立されている「梅の香り」の歌碑の前で練習の成果を披露しました。会場にはたくさんの来場者が訪れ、春の夜風に乘せた出場者の歌声に耳を傾けていました。

今大会の大賞には幸地和秋さん(宜野湾市)が受賞しました。そのほかの各受賞者は次のとおりです。(敬称略)

- 【優秀賞】稲福舞(与那原町)・名嘉愛理(八重瀬町)
- 【奨励賞】伊佐エリオット幸江(北谷町)
- 【特別賞】大場恵美子(那覇市)



▲ 大賞を受賞した幸地和秋さん

平成24年度コミュニティ助成事業は 西原ハイツ自治会に助成決定

宝くじ普及広報事業の「平成24年度コミュニティ助成事業」の助成団体に西原ハイツ自治会が決定され、4月13日に山里勝也自治会長に対し決定通知が渡されました。

同自治会は助成を活用して、屋外の放送設備の整備を計画しており、助成決定にあたって山里会長は「放送設備が老朽化し、行事などでは保育園や学校から借用していた。これをきっかけに、一層コミュニティ活動を活発にしたい。」と喜びを語りました。上間明町長は「西原ハイツは住民同士がよいコミュニティを形成している。さらなる発展を期待したい。」と激励しました。



保育園の定数拡大に向け、 さくらんぼ保育園が増改築工事

さくらんぼ保育園(立津佳忠園長)増改築工事の起工式が、4月26日に宇翁長の建設予定地で行われました。この増改築工事は「安心子ども基金」の補助を受けて事業実施されるもので、新園舎が完成すると定員数が90名から120名に増員され、待機児童の解消が期待されます。工事は今年度中の完成を目指しており、平成25年度には新園舎での受入れを予定しています。

起工式にあたり、さくらんぼ保育園を運営する社会福祉法人報徳福祉会の立津源徳理事長は「新園舎に向けて関係者のご尽力を受け、子どもたちの人間形成にとって大切な時期を預かる立場として、身が引き締まる思い。」と抱負を語りました。また上間明町長は「保育園のニーズが高まる中、待機児童解消は重要な行政課題。増改築に伴う定員数拡大は、本町の保育行政にとって大きな前進だ。」と喜びを述べました。



若者の支援を目指し、 チャリティー展示即売会を開催

町内の意欲ある若者を支援しているNPO法人西原町人づくり支援の会が、支援のための財源確保を図るため「第15回チャリティー展示即売会」を4月20日から3日間、サンエー西原シティで開催しました。同会は即売会の売上のほか、会員の会費や寄附などを財源として、町内小中学校への図書や寄附、海外留学支援、大学の奨学金、県外派遣の助成金などを通じて若者を支援する人材育成支援事業に取り組んでいます。

即売会の開催にあたって新川武雄理事長が「これからは若者の支援を継続するため、例年以上に即売会を盛り上げよう。」と意気込みを語りました。展示会には陶芸、書道、絵画、手工芸品や写真など約300点が並び、多くの買い物客が作品を買い求めました。



中央公民館の空に、こいのぼりが泳いだ -町社会福祉協議会こいのぼり掲揚式-

こどもの日を前にした4月25日、町中央公民館でこいのぼり掲揚式(町社会福祉協議会主催)が開催されました。掲揚式にはさざなみ、白百合、小川、さわふじ保育園と西原南幼稚園の園児が参加。町社会福祉協議会の新川善昭会長が「大空を泳ぐこいのぼりのように元気に成長できるように、みんなでこいのぼりを揚げましょう。」と園児に向けてあいさつしました。

式では「こいのぼり」を歌った後、代表の園児が掲揚に挑戦。空を泳ぐたくさんのこいのぼりの下で踊りを披露し、式を楽しみました。



今年もビーチでいっぱい思い出作ろう! -西原きらきらビーチが海開き-

マリンスポーツシーズンの到来を告げる、西原きらきらビーチ海開きが、4月22日に西原マリパークで開催されました。

初泳ぎを楽しもうと、たくさんの来場者が訪れましたが、この日はあいにくの雨模様。そんな中、中央管理棟では海開きのセレモニーが行われました。セレモニーでは、西原小学校の音楽部が最近のヒット曲など3曲を演奏しました。また、棚原弥勲太鼓が本格的なビーチシーズンを思わせる華やかな創作エイサーの演舞を披露し、来場者を楽しませました。



小波津区の農家がさとうきびの生産を学ぶ

西原町で最大のさとうきび生産を誇る小波津自治会は、さとうきびの生産技術向上を図るため、小波津区農業視察研修を4月20日に開催しました。研修には同区の農家20名が参加。独立行政法人種苗管理センター(東村)を訪問し、さとうきびの新品種や病害虫の防除、栽培管理などについて学びました。

参加者は「学んだことを参考に、新品種の導入や株出管理、苗の確保と病害虫防除の徹底をし、さとうきび増産につなげたい。」と語りました。

